



元気とタイムリーな情報を提供する 五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 平成25年01月07日 第595号「週刊五十嵐レポート」

不变なもの

平成24年12月末の日経平均株価は10,395円、23年12月末は8,455円で前年度比23%上昇した。今年に入り、一時10,700円を越えた。円も1ドル88円台。振り子のように反転しはじめた(政権も変わった)。

日経新聞やNHK9時のニュースではアジアの特集。そして大和ハウス工業のテレビCMで自社のベトナム工場団地をPR。マンガ「釣りバカ日誌」がベトナム編をスタートした。一般大衆までがアジアへ目を向ける環境になってきた。

足元の我々中小企業は、一日一日が勝負。ある会社の再建の話。業績不振、赤字の原因是、コミュニケーション不足による受発注ミスや掃除の不徹底による不良製品の増加など。突き詰めると「挨拶」と「5S」だった。

顧客に対する挨拶がなかった。あっても元氣がない、聞こえない。社内に対する「声かけ」がない。そのため情報伝達が行きとどかない。

受発注ミスや追加発注が多いため、二度手間、三度手間になっていた。

製造部門での掃除が不徹底のために製品に異物が混入して不良品が出て、やり直しが頻繁に起こった。

つまり、粗利益の生まない作業(ムダな作業)が多く、そのため赤字を生んでしまった。

風土としてあったのは「甘え」。受発注の締め切りは守らない。受発注のミスや不良品を出しても責任の所在はない。製造と販売でもたれあっている。

諸悪の根源がわかったので、あとは対処方法。各部署で朝礼の励行し、挨拶を徹底する。掃除のリーダー(社長直轄)を任命し、掃除を徹底する。受発注ミスには2重チェックを設置。あとはルールを作り、信賞必罰を明確にした。継続していくと、徐々にだがミスや不良品がなくなり「流れ」が良くなっていった。

「流れ」は変われども、やるべき「基本」は変わらない。

ちょっと
気になる出来事

平成24年12月31日、日経のトップ記事は、「公的資金で製造業支援」。「政府は電機メーカーなどの競争力を強化するため、公的新規を活用する方針を固めた。リース会社と官民共同出資会社をつくり、工場や設備を買入れる。企業の過去の投資に伴う負担を和らげるのが狙い。」

シャープやパナソニックに公的資金を使うということ。

公的資金を使った企業の大手術(再生)が行なわれる。

グッドカンパニーとバッドカンパニーの切り離し。

下手するとJALのように法的手手続きによる再生もありうる。
(外部による再生)



経営者は未来に賭ける

企業は“賭け”である。すべての事業は現在の資源を未来の可能性に投資する。あらゆる事業のもくろみは、やみの中への飛躍であり、勇気と信念を必要とする行為である。事業に関する決断は、人を過去に拘束するものではなく、未来の形成に一步踏み込ませるものである。

(「経営の新次元」)

経営者は常に将来の成果を目標として、事業の意思決定を行なうものである。(「現代の経営」)

将来を築くには、勇気がいる。努力がいる。だが、信念もいるのである。
(「創造する経営者」)

ドラッカー経営名言集より

週刊五十嵐レポート 毎週月曜日発行 月刊五十嵐レポートダイジェスト
町コンランチェスター経営戦略塾「会社成功塾」毎週日曜日 午前10時~12時。
町コン・ランチェスター経営戦略セミナー 每月東京開催
株式会社五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051 東京都江戸川区北小岩6-21-5
03-3659-7703 Fax 03-3659-7077 tigaras@attglobal.net

